

エシタロプラム錠 10mg 「TCK」 エシタロプラム錠 20mg 「TCK」

【この薬は？】

販売名	エシタロプラム錠 10mg 「TCK」 ESCITALOPRAM Tablets 10mg 「TCK」	エシタロプラム錠 20mg 「TCK」 ESCITALOPRAM Tablets 20mg 「TCK」
一般名	エシタロプラムシュウ酸塩 Escitalopram Oxalate	
含有量 (1 錠中)	エシタロプラムシュウ酸塩 12.77mg (エシタロプラムとして 10mg)	エシタロプラムシュウ酸塩 25.54mg (エシタロプラムとして 20mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害剤）と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、飲みはじめは、すぐに効果はあらわれませんが、飲み続けると、脳内に作用し、脳内の神経伝達をスムーズにし、抑うつ気分や不安を和らげます。
- ・次の病気の人に処方されます。

うつ病・うつ状態、社会不安障害

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を減らしたりすると、些細なことでも心配になる、いらいら、あせりなどの症状があらわれることがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にエスシタロプラム錠「TCK」に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・モノアミン酸化酵素（MAO）阻害剤〔セレギリン塩酸塩（エフピー）、ラサギリンメシル酸塩（アジレクト）、サフィナミドメシル酸塩（エクフィナ）〕を使用している、あるいは使用を中止してから14日間以内の人
- ・ピモジド（オーラップ）を使用している人
- ・QT延長（先天性QT延長症候群など）のある人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・不整脈（著しい徐脈など）がある人、または過去に不整脈（著しい徐脈など）と診断されたことがある人、うっ血性心不全、低カリウム血症のある人
- ・CYP2C19の活性が遺伝的に欠損している人（Poor Metabolizer）
- ・死にたいと強く思ったり考えたことがある人
- ・躁（そう）うつ病の人
- ・脳に器質的な障害がある人、または統合失調症の素因のある人
- ・衝動的な行動をおこしやすい病気を合併している人
- ・てんかん等のけいれんをおこす病気を有する人、または過去にてんかんなどのけいれんがあった人
- ・出血の危険性を高める薬剤を使用している人、出血傾向又は出血性素因のある人
- ・閉塞隅角緑内障の人
- ・腎臓に高度の障害のある人
- ・肝臓に障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬〔MAO阻害剤〔セレギリン塩酸塩（エフピー）、ラサギリンメシル酸塩（アジレクト）、サフィナミドメシル酸塩（エクフィナ）〕、ピモジド（オーラップ）〕や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○24歳以下で抗うつ剤を使用した場合、死んでしまいたいという気持ちを強めるといふ報告があります。24歳以下でこの薬を使う人は医師と十分に相談してください。

○6～11歳の大うつ病性障害のある人がこの薬を飲んだ場合、有効性が確認できなかったという報告があります。12歳未満の大うつ病性障害のある人は、医師と十分に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	エシタロプラム錠 10mg 「TCK」	エシタロプラム錠 20mg 「TCK」
一回量	1～2 錠	1 錠
飲む回数	1 日 1 回夕食後	

- ・増量される場合には 1 週間以上の間隔をあけて増量されます。1 日最高用量は 20mg を超えることはありません。

●どのように飲むか？

コップ 1 杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して 2 回分を一度に飲んではいけません。気がついた時に、できるだけ早く 1 回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合 1 回とばして次の時間に 1 回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

誤って多く飲んだ場合、めまい（宙に浮いた感じ、ふらつき、頭が回っている感じ）、振戦（手足のふるえ、首のふるえ）、不安、焦燥（あせり、いらいら）、興奮（口数が多くなる、大声で叫ぶ、周囲に暴力をふるう、器物を破壊する、些細なことで怒る）、セロトニン症候群（急に精神的に落ち着かなくなる、体が震える、汗が出る、脈が速くなる、発熱、筋肉のこわばり、手足のびくつき）、痙攣（顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える）、昏睡（意識の消失、刺激に全く反応しない）、悪心・嘔吐（おうと）（吐き気、胃がむかむかする、胸やけ、嘔吐（おうと））、低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、意識の消失）、頻脈（動悸（どうき）、胸の不快感、脈が速くなる、めまい、気を失う）、QT 延長（めまい、動悸（どうき）、気を失う）、不整脈（めまい、動悸（どうき）、脈が遅くなる、気を失う、脈がとぶ）、低カリウム血症（体に力が入らない、体が動かせない、息苦しい、お腹が張る）、低ナトリウム血症（吐き気、頭痛、嘔吐（おうと）、けいれん、意識の低下）などの症状があらわれる可能性があります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・うつ病やうつ状態の人は死んでしまいたいと覚ることがあります。この薬を飲んでいる間、特に飲みはじめや飲む量を変更した時に、不安感が強くなり死にたいと思うなど症状が悪くなることもあるので、このような症状があらわれた場合は、医師に相談してください。
- ・不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、発作的にパニック状態になる、ちょっとした刺激で気持ちや体の変調を来す、敵意を持つ、攻撃的になる、衝動的に行動する、じっとしていることができない、などの症状があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、医師に相談してください。この薬との関連性は明らかではありませんが、これらの症状があらわれた人の中には、うつ症状などのもともとある病気の症状が悪化する場合や、死んでしまいたいと感じたり、他人に対して危害を加えたりする場合があります。
- ・ご家族の方は、死にたいという気持ちになる、興奮しやすい、攻撃的になる、ちょっとした刺激で気持ちの変調を来すなどの患者さんの行動の変化やうつ症状などのもともとある病気が悪化する危険性について医師から十分に理解できるまで説明を受け、患者さんの状態の変化について観察し、変化がみられた場合には、医師に連絡してください。また、患者さんご自身も病状に変化があったと感じた場合には、ご家族の方にも伝えるようにしてください。
- ・眠気、めまいなどの症状があらわれることがあるため、自動車の運転などの危険を伴う機械を操作する時は、十分に注意してください。
- ・この薬は、急に使用を中止した場合に、不安になる、いらいらする、あせる、興奮しやすい、めまい、感覚の異常、頭痛、吐き気などの症状があらわれることがあります。この薬の使用を中止する場合は、時間をかけて、少しずつ量を減らしていきます。医師の指示どおりに使用してください。
- ・この薬を使用していたお母さんから生まれた赤ちゃんに、薬が体から排泄される過程で起こる症状（ぐったりしている、手足をブルブルふるったりする、けいれんなど）があらわれたとの報告や、SSRI と呼ばれるグループに属する他の薬で肺高血圧症(皮膚や粘膜が青紫色になる、呼吸困難など)の危険性が増えるという報告があるので、妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・アルコール飲料は、この薬に影響しますので控えてください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

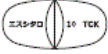
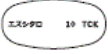
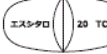
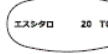
特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（SIADH） こうりにようホルモンふてきごうぶ んぴつしょうこうぐん（エスアイエ イディーエイチ）	けいれん、意識の低下、意識の消失、吐き気、食欲不振
セロトニン症候群 セロトニンしょうこうぐん	急に精神的に落ち着かなくなる、体が震える、汗が出る、脈が速くなる、発熱、筋肉のこわばり、手足のぴくつき
QT 延長 キューティーえんちょう	めまい、動悸（どうき）、気を失う
心室頻拍（torsades de pointes を含む） しんしつひんぱく（トルサードドポ アンをふくむ）	めまい、動悸（どうき）、胸の不快感、気を失う

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	顔や手足の筋肉がぴくつく、けいれん、体が震える、汗が出る、発熱
頭部	一時的にボーっとする、意識の低下、意識の消失、急に精神的に落ち着かなくなる、めまい、気を失う
口や喉	吐き気
胸部	動悸（どうき）、胸の不快感
腹部	食欲不振
手・足	手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、脈が速くなる、手足のぴくつき
筋肉	筋肉のこわばり

【この薬の形は？】

販売名	エシタロプラム錠 10mg 「TCK」	エシタロプラム錠 20mg 「TCK」
形状	フィルムコーティング錠 (割線入り)   	フィルムコーティング錠 (割線入り)   
直径	10.0mm×4.7mm	12.9mm×5.9mm
厚さ	3.3mm	4.2mm
重さ	128mg	255mg
色	白色	白色

【この薬に含まれているのは？】

販売名	エシタロプラム錠 10mg 「TCK」	エシタロプラム錠 20mg 「TCK」
有効成分	エシタロプラムシュウ酸塩	
添加物	D-マンニトール、ヒドロキシプロピルセルロース、結晶セルロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、タルク、軽質無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、酸化チタン、カルナウバロウ	

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かない所に保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：辰巳化学株式会社 (<https://www.tatsumi-kagaku.com/>)

薬事学術・安全管理部：076-247-2132

受付時間：月～金曜日 9:00～17:00（祝祭日を除く）